

知っておきたい

1 50人に1人の確率

人身事故の当事者になる確率は、毎年50人に1人。交通安全キャンペーン誌「シグナル」が、過去3年間のデータに基づいてこの数字を算出しています。

全国では、人身事故だけでも年平均90万件発生しており、第一当事者と第二当事者を合わせると、150万人以上のドライバーが事故当事者になっています。これを運転免許人口約7,500万人で割ると、事故遭遇率が分かります。第一当事者になる確率だけを見ても、86人に1人という高率だそうです。

多くのドライバーは、「せいぜい1,000人に1人くらい」と思っているかもしれませんが、実際の数字は厳しい現実を示しています。

交通事故が決してひとつではないということをあらためて思い知らされます。

2 交通事故相談

万が一、交通事故の被害者や加害者になってしまった場合、事故の示談や慰謝料、保険請求などについて、悩む方も多いはず。区役所や市役所では、相談窓口を設けて専門の相談員がアドバイスしていますので、ご利用ください。費用は無料。予約は必要ありません。

西区役所1階相談コーナー

毎週金曜

午前9時30分～午後4時

詳細西区総務企画課広聴係

TEL641-2400内線226

市役所1階市民の声を聞く課

毎週月曜～金曜

午前9時30分～午後4時

詳細同課 TEL211-2042



7月9日、西野札幌幼稚園で開催された交通安全教室。西区交通安全運動推進委員会では、専任の交通安全教育指導員が保育園や幼稚園、小学校、町内会、老人クラブなどで、交通安全教育を行っています。ご希望の団体は、同委員会事務局（電話 641-4799）へお問い合わせください。

八軒西小学校の校舎に設置されているヒヤリマップ。八軒を校区とする八軒西、八軒、八軒北、琴似中央の四つの小学校では、児童が自分たちの経験を基に、危険個所を示した地図を作成し、交通事故の防止に役立てています。



琴似栄町通沿線の三つの商店街組合と琴似連合町内会では、違法駐車等ストップ活動委員会を結成し、毎月1回違法駐車防止の啓発活動を行っています。違法駐車は交通渋滞を招くばかりか、事故の原因にもなります。



交通安全母の会活動歴25年の菅原さん

「最近、信号を守らない人が目に付いて、とても気掛かりです」と話すのは、西区交通安全母の会会長の菅原玲子さん(六三)。

* * *

西区内では鳴海さんを含めて七十三人の交通安全指導員が活動しています。こうした指導員やPTAの皆さんが、登下校時の交通安全指導をしながら、地域の子どもの成長を温かく見守っています。

菅原さんは、「母の会は参加自由なので仕方ないのですが、若いお母さんたちは仕事などでなかなか活動に参加できないようです」とちよびり悩みも打ち明けてくれました。

* * *

交通安全行事の準備に汗を流す町内会役員の皆さん。新入学シーズンに黄色い手旗を持ち、子どもたちの姿を優しく見守るお母さんたち。交通事故をなくすための特別な効果はありません。ハンドルの握るとき、地域の交通安全のために多くの人々が地道で粘り強い活動を続けていることを思い起こしてください。